

『作業科学研究』10年の振り返り

青山 真美

作業科学研究編集部

2016年12月、日本作業科学研究会の機関誌『作業科学研究』は第10巻を発刊することとなった。そこで、本稿では、『作業科学研究』第1巻(2007年12月)から第10巻(2016年12月)の10年間に掲載された投稿論文等を整理することとした。

本誌への投稿原稿は、「作業および作業的存在に焦点を当てたものであり、作業科学の研究推進、学問的発展に寄与するもので、未刊行のものに限る」と規定され、論文は次の種類が定められている。

- (1) 総説：研究や調査論文の総括および解説
- (2) 研究論文：明確な構想に基づいた作業科学研究
- (3) 実践報告：作業科学の視点に基づいた報告と考察
- (4) 短報：萌芽的又は独創的な作業科学研究・プロジェクト
- (5) 資料：作業科学に関連する事柄の紹介、資料を含む
- (6) 書評：単行本や学術論文の紹介、抄録、評論を含む
- (7) その他：編集委員が適当と認めたもの

第1巻から第10巻に掲載された、投稿論文、依頼原稿等、作業科学セミナー講演録の数を表1に示した。

表1 『作業科学研究』掲載論文数等一覧

| 掲載巻 | 発刊年月 | 査読付き投稿論文 | | | | 依頼原稿等 | | | 作業科学セミナー講演録 ()内はセミナーの回 | | | | | |
|------|----------|----------|------|------|----|-------|----|-----|-------------------------|-------|-----------|-------|----|----------|
| | | 総説 | 研究論文 | 実践報告 | 短報 | 資料 | 書評 | その他 | 佐藤剛 記念講演 | 特別講演 | 基調講演 | 教育講演 | 抄録 | |
| 第1巻 | 2007年12月 | | | | | 1 | | 9 | 1(10) | | | | | |
| 第2巻 | 2008年11月 | | 2 | | | 1 | | 1 | 1(11) | 1(11) | | | | (8)(11) |
| 第3巻 | 2009年11月 | | 2 | | | 2 | | 1 | 2(12) | 1(12) | | | | (9)(12) |
| 第4巻 | 2010年11月 | | | | | 2 | | 1 | 3(8)(9)(13) | 1(13) | | | | (10)(13) |
| 第5巻 | 2011年12月 | | 2 | | | | | 1 | 1(14) | | 1(14) | 1(14) | | (14) |
| 第6巻 | 2012年12月 | | 2 | | | 1 | 1 | 1 | 1(15) | 1(16) | | 1(16) | | (15)(16) |
| 第7巻 | 2013年12月 | | 1 | 1 | | | | 2 | | | 2(16)(17) | | | (17) |
| 第8巻 | 2014年12月 | | 1 | 1 | | | | 2 | 1(17) | 1(17) | | 1(18) | | (18) |
| 第9巻 | 2015年12月 | | | | | | | 2 | 1(18) | | 1(18) | | | (19) |
| 第10巻 | 2016年12月 | | 2 | | 2 | | | 6 | 1(19) | | 1(19) | | | (20) |
| 計 | | 0 | 12 | 2 | 2 | 7 | 3 | 26 | 12 | 5 | 5 | 3 | | |
| | | | | | 16 | | | 36 | | | | | | |
| | | | | | | | | 52 | | | | | 25 | |
| | | | | | | | | | | | | | 77 | |

これらの原稿のうち、一定の質を確保することを目的に査読が行われた論文は、研究論文、実践報告および短報である。これらの査読を経て掲載された投稿論文は、10年間で計16編であり、研究論文12編、実践報告2編、短報2編であった。なお、短報は、萌芽的研究の投稿を促進するため、第10巻より新設され、2編の短報が掲載された。編集委員会が依頼した原稿等は、資料7編、書評3編であり、その他については、巻頭言10編、1巻の寄稿8編、コラム「作業的存在」4編、10周年記念特集4編で、依頼原稿等の合計は36編であった。また、日

本作業科学研究会は、毎年「日本作業科学セミナー」を開催し、作業科学に造詣の深い講師による講演から学びを得ているが、さらに、繰り返し学ぶ機会を提供するために、その講演録もできる限り本誌に掲載している。また、英文原稿には和訳原稿もつけて、幅広い読者に作業科学の知識が提供できるよう努めている。これらの講演録の掲載は10年間に25編となり、投稿論文、依頼原稿等、セミナー講演録を合わせて、本誌に掲載されたものは合計77編であった。

研究論文(表2)、短報(表3)、実践報告(表4)については、論文の種類ごとに①掲載巻 ②著者 ③論文タイトル ④キーワード ⑤目的 ⑥対象 ⑦データ収集法 ⑧研究種類 ⑨作業の視点を示した。一覧で投稿論文全体を概観すると、全てが「作業および作業的存在に焦点を

当てた」論文でありながら、一つ一つの論文が、異なる対象に対して、異なる視点から研究が行われて「作業」の知識の蓄積に貢献してきたことが伺える。

表2 研究論文

| 掲載巻 | 著者名 | 論文タイトル | キーワード | 目的 | 対象 | データ収集法 | 研究種類 | 作業の視点 |
|------|------------|---|------------------------------------|---|---|------------------|------|----------------------------------|
| 第2巻 | 齋藤さわ子 他 | ケアハウス居住者の今後新たにしたい作業の意味とその作業が開始されない理由 | 作業選択, 虚弱高齢者, 健康増進プログラム, ケアハウス | 新たにしたい作業の意味と現在していない理由を探索し, それらの相互関係を理解する. | ケアハウスに住む高齢者 21名 | 半構造化面接 | 質的 | 作業のニード 作業の意味 |
| 第2巻 | 福田久徳 | 価値は作業形態を超える～Potentialityの実践～ | Potentiality, Interaction, 意味のある作業 | 生活背景に沿った作業を作業療法として提供し, 事例の変化をPotentialityという概念で捉える. | 非ホジキンリンパ腫に伴う対麻痺による自身の生活に悲観的な事例 | 事例研究 | 質的 | 作業と個人の相互作用 (Potentiality) |
| 第3巻 | 吉川ひろみ | 作業の意味を考えるための枠組みの開発 | 作業, 意味, 文献レビュー | 作業科学において, 作業の意味がどのように表現されているかを明らかにする. | 1993年ー2008年 Journal of Occupational Science: 該当論文50編 | 文献レビュー | 質的 | 作業の意味の カテゴリー化 |
| 第3巻 | 岡千晴 他 | 自分らしい人生を作業で描くプロセス | 自分らしい生活, 存在価値, 自己表現, 質的研究 | 自分らしい生活に繋がる作業について理解を深める. | デイケア通所高齢者: 3名 | 半構造化面接 | 質的 | 作業の行い方(形態)と自己表現 |
| 第5巻 | 小田原悦子 他 | ある脳卒中者が経験した作業の変化～指向性～ | 作業従事, 現象学, 可能性, 気づき | 障害によってもたらされたライフラインの中で, 作業従事がどのように変化し, 個人が作業従事の変化をどのように経験するかを理解する. | 脳卒中後遺症, 女性: 59歳 主婦 | 半構造化面接, フィールドノート | 質的 | 作業従事と可能性(作業従事と個人との相互作用による可能性の変化) |
| 第5巻 | 仲間知穂 他 | 幼児の作業の可能化を目指す幼稚園教員との協働的アプローチ～作業療法士が提供する情報の扱い方に焦点をあてて～ | エンパワーメント, 情報共有, クライアント中心, 協働 | 幼稚園教員との協働的アプローチがおこなえたケースについて, OTの情報の扱い方に焦点を当てて紹介し, 考察を深める. | パートナーである幼稚園教員, 幼児, OT | 事例研究 | 質的 | 意味ある作業の選択・作業の可能化・情報提供(作業) |
| 第6巻 | 福田久徳 他 | 作業科学を学んだ作業療法士の主観的变化 | 作業科学, 作業療法, 作業に基づいた実践, 専門職アイデンティティ | 作業科学を学んだ作業療法士がどのような変化を感じているかを調査する. | OSセミナー参加者112名 | インタビュー結果に基づく質問紙 | 量的 | 学習(作業)による認識の変化 |
| 第6巻 | 西方浩一 他 | 障害児の母親が経験する社会とはー母親の手記の分析からー | 障害児, 母親, 作業, 社会 | 障害児の母親が経験する社会を理解する. | 障害児の母: 1名 | 手記 | 質的 | 人ー作業ー社会の相互作用による社会認識の変化 |
| 第7巻 | 永吉美香 他 | 少年院における作業経験に関する作業公正/不公正の観点からの探索 | 少年院, 作業, 作業的公正 | 日本の少年院における作業経験を作業的公正/不公正の観点から探索する. | 少年院への被収容経験のある情報提供者8名 | 半構造化面接 | 質的 | 作業的公正/ 不公正 |
| 第8巻 | 山根伸吾 他 | 日本学生と韓国学生との役割に伴う作業に関する探索的検討ー文化の観点からー | 文化, 作業, 役割 | 自身の作業と役割の認識と感情に関して, 両者の異同を確認し, 文化の観点から説明が可能であるかを検討する. | 日本学生34名, 韓国学生42名 | 質問紙 | 量的 | 文化と作業 作業バランス(願望的, 義務的) |
| 第10巻 | 今井忠則 | 作業療法学生における作業的公正/不公正の統計的実態とQOLとの関連ー質問紙による統計的調査の試みー | 作業的公正, QOL, 質問紙, 社会的公正 | ①質問紙による統計的調査の実現可能性を検討すること, ②集団における統計的実態(不公正状態を感じている人の割合)を明らかにすること, ③他の健康指標(WHO QOL)との関連を明らかにすること. | 作業療法学生 142名 | 質問紙 | 量的 | 作業的公正/ 不公正 |
| 第10巻 | 伊藤文香 他 | 作業を中心とした教育プログラムの活用プロセスー地域在住高齢女性の事例研究ー | 作業, 教育プログラム, 行動変容, 活用プロセス | 作業を中心とした教育プログラムに参加後, 得た知識や技能を自身の作業に活用した1人の高齢女性を情報提供者とし, その活用プロセスを探索する. | 作業を中心とした教育プログラムに参加後の高齢女性1名 | 参与観察および半構造化面接 | 質的 | 学習(作業)と 行動(作業)の 変容 |

表3 短報

| 掲載巻 | 著者名 | 論文タイトル | キーワード | 目的 | 対象 | データ収集法 | 研究種類 | 作業の視点 |
|------|------------|---------------------------------------|--------------------------------|--|-------------------------------|----------------|-------|-----------|
| 第10巻 | 小森亜紀 他 | ブレイバックシアターのストーリーにおけるテラー経験 | ブレイバックシアター, 語り手, 主観的経験 | 「PBTのテラーをする」という作業をした人々の主観的経験を明らかにすること | テラー経験者7名, ワークショップ参加者によるテラー54名 | 半構造的インタビュー・質問紙 | 質的・量的 | 作業と主観的経験 |
| 第10巻 | 鴨藤菜奈子 他 | 青年期・成人期高機能自閉症スペクトラム障害者の生活の工夫とそれにいたる経過 | 適応, 生活上の工夫, 作業, 高機能自閉症スペクトラム障害 | 青年期・成人期高機能自閉症スペクトラム障害者の, 社会参加に際して行っている生活上の工夫, そのきっかけとそれにいたるまでの問題について理解する | 就労し社会生活を送る高機能自閉症スペクトラム障害者:3名 | 半構造的インタビュー | 質的 | 生活(作業)の工夫 |

表4 実践報告

| 掲載巻 | 著者名 | 論文タイトル | キーワード | 目的 | 対象 | データ収集法 | 研究種類 | 作業の視点 |
|-----|-----------|---|--------------------------|--|--|---------------------------|---------|-------|
| 第7巻 | 高木雅之 他 | 地域住民に対するものづくり講座ーものづくりを通して健康になれる地域を目指してー | ものづくり, 健康増進, 地域づくり, 公開講座 | 地域住民を対象に健康増進のためのものづくり講座を開催した. その概要と成果を報告する. | 「ものづくりと健康づくり」講座に参加した地域住民(延べ50名:60~70代) | 「ものづくりと健康づくり」講座の実施・質問紙と観察 | 実践報告・量的 | 作業と健康 |
| 第8巻 | 石井愛美 他 | 妊婦に対する作業を中心とした生活支援プログラムの開発の試み | 妊婦, 作業, 生活支援, 健康促進 | 出産前後の女性の作業を中心とした生活支援プログラムの開発プロセスと実施内容を提示し, 実施結果をスタッフ側の視点から報告する | 出産前後の女性を対象とした講習会2回(参加者計6名) | アンケート調査・観察記録, 専門家の意見 | 実践報告 | 作業と健康 |

依頼原稿である資料(表5), 書評(表6)およびその他(表7-1~表7-4)は①掲載巻, ②著者, ③タイトルのみを示した.

表5 資料

| 掲載巻 | 著者名 | タイトル |
|-----|-------|--|
| 第1巻 | 吉川ひろみ | 作業科学シンクタンクの報告 |
| 第2巻 | 吉川ひろみ | 「ウィリアード&スパックマンの作業療法」における作業科学 |
| 第3巻 | 吉川ひろみ | アリソン・ウィックス講義録「私にぴったり:作業科学がいかに見方を変えたか」 |
| 第3巻 | 近藤知子 | Occupational presenceを考える:作業従事が導く心理的な変化 |
| 第4巻 | 葉山靖明 | 神楽と旅と2010年(エッセイ) |
| 第4巻 | 高木雅之 | オーストラリアン作業科学センター研修報告:オーストラリアにおける作業に焦点を当てた地域プログラム・研究・教育 |
| 第6巻 | 吉川ひろみ | 世界作業療法士連盟 作業科学に関する声明書 |

表6 書評(研究論文紹介)

| 掲載巻 | 書評者 | 紹介論文 |
|-----|-------|---|
| 第6巻 | 吉川ひろみ | 作業の研究 Polatajko, H.J. (2000). The study of occupation. In Townsend EA & Christiansen CH, (Eds.) Introduction to Occupation: The Art and Science of Living 2nd ed. Upper Saddle River, NJ, Pearson, pp.57-79. |
| 第8巻 | 吉川ひろみ | 作業科学:作業の研究 Wright-St Clair, V. A. & Hocking C. (2014). Occupational science: The study of occupation. In B. A. B. Schell, G. Gillen, M. E. Scaffa (Eds). Willard & Spackman's occupational therapy (12th ed, pp. 82-94). Philadelphia: Lippincott Williams & Wilkins. |
| 第8巻 | 吉川ひろみ | 作業的公正 Wilcock W. A. & Townsend E. A. (2014). Occupational justice. In B. A. B. Schell, G. Gillen, M. E. Scaffa (Eds). Willard & Spackman's occupational therapy (12th ed, pp. 541-552). Philadelphia: Lippincott Williams & Wilkins. |

表7-1 その他(巻頭言)

| 掲載巻 | 著者 | 紹介論文 |
|------|------------|---------------------|
| 第1巻 | Ruth Zemke | 創刊に寄せて |
| 第2巻 | 吉川ひろみ | 「作業」って何だろう |
| 第3巻 | 村井真由美 | 作業のメガネ |
| 第4巻 | 西野歩 | 消えても生き続けるもの |
| 第5巻 | 港美雪 | 作業を強調した時代からの飛躍 |
| 第6巻 | 近藤知子 | 生活の達人 |
| 第7巻 | 青山真美 | 当たり前にあるものを守ること |
| 第8巻 | 西野歩 | こころと上手に付き合い自分を達成したい |
| 第9巻 | 酒井ひとみ | ワクワクする作業が蘇るとき |
| 第10巻 | 近藤知子 | 発刊10周年によせて |

表7-2 その他(寄稿:私と作業科学)

| 掲載巻 | 著者名 | テーマ・タイトル |
|-----|-----------|---|
| 第1巻 | 宮前珠子 | 私と作業科学 |
| 第1巻 | 港美雪 | 私と作業科学ー作業科学を学ぶことで広がる作業療法の可能性- |
| 第1巻 | 吉川ひろみ | 私と作業科学 |
| 第1巻 | 浅羽エリック | 私と作業科学 (I and Occupational Science) |
| 第1巻 | 坂上真理 | 私と作業科学「自分の作業を語り, 考え, 行うことの意味ー作業の自己分析とライフスタイル再構築プログラムの経験からー」 |
| 第1巻 | 西野歩 | 私と作業科学ー過去, 現在, 未来- |
| 第1巻 | ボンジェ・ペイター | 私と作業科学ーひとの現実世界や実際の生活状況の探求- |
| 第1巻 | 村井真由美 | 私と作業科学 |

表7-3 その他(コラム:作業的存在)

| 掲載巻 | 著者名 | タイトル |
|------|-------|--|
| 第7巻 | 吉川ひろみ | ブレイバックシアター ジョナサン・フォックス氏へのインタビュー 宗像佳代さんへのインタビュー |
| 第8巻 | 青山真美 | 有田焼きの伝統を進化させる作家の技 坂本義弘先生へのインタビュー |
| 第9巻 | 向井聖子 | 静かな提案「何気ない毎日こそ美しい」 写真家 渡邊真弓さんへのインタビュー |
| 第10巻 | 村井真由美 | 書画はその人を想う発信のツール 作業療法アーティストkoshikiさんへのインタビュー |

表7-4 その他(10周年記念特集)

| 掲載巻 | 著者名 | タイトル |
|------|---------------|---------------------------------|
| | | 初代・現日本作業科学研究会会長のこぼれ |
| 第10巻 | 宮前珠子 吉川ひろみ | 作業科学の振り返りと今後の展望 作業科学:振り返りと展望 |
| 第10巻 | 各組織代表 | 世界の作業科学組織からの祝辞 |
| 第10巻 | ボンジェ・ペイター | 作業科学セミナー20年の振り返り |
| 第10巻 | 青山真美 | 『作業科学研究』10年の振り返り |

作業科学セミナーの講演録は、佐藤剛記念講演、特別講演、基調講演、教育講演の順に①掲載巻、②セミナーの回、③講師名、④講演タイトルを資料1-資料4に示した。

これらの講演録を「作業科学」理解のための学習に役立てていただきたい。

資料1 佐藤剛記念講演

| 掲載巻 | セミナー | 講師名 | 講演タイトル |
|------|------|------------|--|
| 第1巻 | 第10回 | 小田原悦子 | 作業科学:佐藤剛が手渡したかったもの |
| 第2巻 | 第11回 | 宮前 珠子 | 作業科学の系譜と今後の発展 |
| 第3巻 | 第12回 | 中村春基 | 作業を行っている患者さまは元気 ～そのためには作業療法士はなにをすべきか～ |
| 第3巻 | 第12回 | 小田原悦子 | 作業の力:作業療法士の反省を作業科学の視点で分析する |
| 第4巻 | 第8回 | Ruth Zemke | 時間と場所と作業:私たちの生活の捉え方を形作るもの |
| 第4巻 | 第9回 | 吉川ひろみ | 作業とは何で、何の役に立ち、どのような意味があるのか |
| 第4巻 | 第13回 | 港美雪 | どのように働くことが健康を促進するか ー作業に関する社会的課題解決に向けた提案と実践ー |
| 第5巻 | 第14回 | 村井真由美 | 作業の知識を活かすこと、生み出すこと ～1人の作業療法士の経験から～ |
| 第6巻 | 第15回 | 近藤敏 | 我作業する,ゆえに我あり |
| 第8巻 | 第17回 | 齋藤さわ子 | 作業を通して人を理解すること ～東日本大震災を経験してその重要性を改めて考える～ |
| 第9巻 | 第18回 | 坂上真理 | 作業科学における場所の再考:トランザクションの視点から |
| 第10巻 | 第19回 | 浅羽 エリック | トランジション:移住,教育,就労を通しての考察 |

資料2 特別講演

| 掲載巻 | セミナー | 講師名 | 講演タイトル |
|-----|------|--------------------|---|
| 第2巻 | 第11回 | Alison Wicks | メインストリームへ:作業科学を見えるように |
| 第3巻 | 第12回 | Staffan Josephsson | Astridと桜の木:作業がもつ変化を起こす力の考察 |
| 第4巻 | 第13回 | Jin-Ling Lo | 作業科学のプロモーション |
| 第6巻 | 第16回 | 道信良子 | ヘルス・エスノグラフィー:子どものフォトボイスを事例として |
| 第8巻 | 第17回 | 木田佳和 | 震災から現在,そして未来へ ～作業的存在としての姿を取り戻すための支援～ |

資料3 基調講演

| 掲載巻 | セミナー | 講師名 | 講演タイトル |
|------|------|---------------------|-------------------|
| 第5巻 | 第14回 | Clare Hocking | 作業科学研究の現在と未来 |
| 第7巻 | 第16回 | Doris Pierce | 作業科学の構築 |
| 第7巻 | 第17回 | Helene.J. Polatajko | 作業の理解:作業療法に不可欠なこと |
| 第9巻 | 第18回 | John A.White | 作業としてのリーダーシップ |
| 第10巻 | 第19回 | Jeanne Jackson | 高齢期に意味のある存在を生きる |

資料4 教育講演

| 掲載巻 | セミナー | 講師名 | 講演タイトル |
|-----|------|------------|-----------------|
| 第5巻 | 第14回 | 吉川ひろみ | 私の作業科学 |
| 第6巻 | 第16回 | Ruth Zemke | 作業療法のための作業科学の未来 |
| 第8巻 | 第18回 | 高木雅之 | 作業的に豊かな環境を創る |

このように、一覧にまとめて全体を眺めてみると、投稿者、寄稿者の「作業」に対する熱い思が感じられると共に、本誌が、本誌の志である「作業および作業的存在に焦点を当て」作業の知識を増やし、日本の作業科学の研究推進、学問的發展に寄与してきたと実感できる。本誌に掲載された投稿論文等の一覧を眺めていただき、もし、心にとまる

研究テーマが見つければ、ぜひ、原本に戻っていただきたい。そこで、アイデアを得て、研究意欲が掻き立てられ、新たな研究に繋がることを心より願う。次号第11巻では、日本作業科学研究会の本年度の「第20回日本作業科学セミナー」のテーマであった「作業的公正」の特集を企画している。ふるって投稿していただきたい。